【不思議時空】空を飛んでみたい（物理）

# 【不思議時空】空を飛んでみたい（物理）

**藤沢みや（miya）**

**https://www.pixiv.net/novel/show.php?id=15406409**

ヒュンマ

最終決戦前の不思議時空でのお話。タイトル通り、空が飛びたいお話。空が飛びたいというより、クロコさんに投げ飛ばしてもらいたい？？？　細かいことは気にしてはいけない。

# 【不思議時空】空を飛んでみたい（物理）

※またもや最終決戦前のみんなが一緒にいる謎時空。みんな元気(笑)
　マァムちゃんは既に武闘家軸でお読みください。

「「クロコダイン！！」」
「ダイ！　ポップ！」
　ダイとポップは巨大な体を見つけると駆け寄る。
　ダイはひょいっとクロコダインの左肩に乗り、ポップは右腕にぶら下がる。
　きゃっきゃと笑いながら話す様子は微笑ましい。

「ちょっと、羨ましいわよね」
　マァムの呟きに、ヒュンケルは隣の少女を見やる。
「……ヒュンケルも、実は羨ましいでしょ？」
　悪戯っ子のような笑顔に気圧され、釣られて「ああ」と答えてしまった。確かにあの巨体に乗って眺める景色はいい。鬼岩城探索の時に、体力の差もあり何度か乗せてもらったが、大層眺めがよかった。
「ダイとポップは、ガルーダに運ばれて空も飛んでいるのよ。私も空を飛んでみたい！」
　ぷうと頬を膨らませて言う様が子供っぽく、普段は姉たらんとする彼女が束の間に見せる年頃の少女のような仕草にくすぐったくなる。
「素直に頼んでみたらどうだ？」

「クロコダインの肩に乗りたいって？」
　やさしいクロコダインのことだ、間髪入れずに承諾をしてくれるだろう。そう思ったのが、マァムはビックリ眼で聞き返してくる。
　そして、オレの顔を見てひとつ頷くと、レオナ姫のように笑って駆け出した。
「クロコダイン！　私も肩に乗りたい！！　あと、ヒュンケルも乗りたいんですって！！　空も飛びたいわ」
　ちゃっかりと自分の名も付け加えている。
　オレの名前が出ると、ポップがにやにやと笑ってくるのが見えた。
「おっさん、前にダイにやってた空に投げるの、あいつらにもやってやったら？」
「なに、それ！？　私もやる！！」
「前にね、フレイザードと戦った時に遠くに投げてもらったんだっ！　それを真似して何回か投げてもらってるけど、面白いんだよ！！」
「楽しそうっ」
　マァムの瞳がキラキラしている。
　オレも投げてもらったと言えば、あのキラキラした瞳を自分にも向けてもらえるのだろうか……ふとそう考えてしまった自分に微苦笑を零す。

　その後、オレ達はクロコダインにボールのようにポンポン空に投げて貰い、ガルーダの協力を得て空中散歩も楽しんだ。
　名目上はフォーメーション練習だ、とポップが笑いながら言っていたのがおかしかった。

おしまい